

2021 年度 日本オカリナ・アンサンブル・コンクール 課題曲一覧

編成	課題曲コード	原題名	邦名	仕様	演奏時間
2重奏	A	2声の小フーガ	同左	Alto in C. Tenor in F	約3分30秒
		古典的なフーガの技法を用いての作品に見えるが、結句の扱いや、属調（往奏部）で終結させる等、型を破りつつも上品な仕上がりの作品			
3重奏	B	道化のタランテラ	同左	Alto in C. Tenor in G or in F Bass in C	約2分50秒
		イタリアのタラント発祥の速い舞曲「タランテラ」			
4重奏	C	Greensleeves	グリーンスリーブス	Mezzo Soprano in G. Alto in C. Tenor in G. Bass in C	約4分25秒
		イギリス民謡の「グリーンスリーブス」のアレンジ			
5重奏	D	Wachet auf, ruft uns die Stimme	目覚めよと呼ぶ声あり (カンタータ第140番)	Soprano in C. Mezzo Soprano in G. Alto in C. Tenor in F. Bass in C or Contrabass in C	約5分10秒
		J.S.バッハの有名なオルガンレパートリー、「シューブラー・コラール集」の1曲			
7重奏	E	Cinderella	シンデレラ	Soprano in C. Mezzo Soprano in G. Alto in C. Tenor in G. Bass in C Contra-alto in G. Contrabass in C.	約7分
		世界的に有名な童話「シンデレラ」を題材に、物語の印象を描いた作品			

使用楽器詳細

記譜楽器名称	国際式階名の音域	使用課題曲コード
Soprano in C	A5 ~ F7	D.E.
Mezzo Soprano in G	E5 ~ C7	C.E.
Mezzo Soprano in F	D5 ~ B♭6	D.
Alto in C	A4 ~ F6	A.B.C.D.E.
Tenor in G	E4 ~ C6	B.C.E.
Tenor in F	D4 ~ B♭5	A.B(Op).D.
Bass in C	A3 ~ F5	B.C.D.E
Contra-alto in G	E3 ~ B4	E.
Contrabass in C	A2 ~ E4	D(Op).E.

2021 年度 日本オカリナ・アンサンブル・コンクール 2 重奏課題曲

「2 声の小フーガ」

【使用楽器詳細】

記譜楽器名称	国際式階名の音域
1. Alto in C	A4 ~ F6
2. Tenor in F	D4 ~ B♭5

【Tempo について】

Tempo Free と指示のあるとおり、「遅め」でも「速め」でも、表現できる曲ですが、遅すぎず、速すぎず、♩ = 70~100 くらいの Tempo を目安とすると良いでしょう。

参考音源は、♩ = 80 で演奏しています。

※ 【参考音源について】

参考音源は、楽譜をコンピューターが再現しているもので、必ずしも演奏の模範や指標となるものではありません。曲全体のイメージの参考とご認識ください。

尚、1 部の特殊奏法は参考音源では反映されておりません。予めご了承ください。

「道化のタランテラ」

【使用楽器詳細】

記譜楽器名称	国際式階名の音域
1. Alto in C	A4 ~ F6
2. Tenor in G (in F でも可)	E4 ~ C6 F の場合 = D4 ~ B♭5
3. Bass in C	A3 ~ F5

【タランテラについて】

タランテラとは、イタリア南部、タラントを発祥とする。6/8 拍子の速い舞曲のことで、一説にはこのタラント地方の毒蜘蛛「タランチュラ」に噛まれると、毒を抜くまで踊り続けなければならない…といった言い伝えから名付けられたとも言われています。

タランテラは古くは 1600 年代まで遡り、ダンスの起源とも言われ、これまで多くの作曲家が作品を残しています。中でも ショパンやリスト、ロッシーニ、ブルグミュラーなどが有名です。

「道化のタランテラ」と名付けられたこの曲は、サーカスの余興で「一緒に踊りましょう」と、次々と観客を呼びよせ、滑稽に踊る道化師の姿をイメージして書かれました。

※【参考音源について】

参考音源は、楽譜をコンピューターが再現しているもので、必ずしも演奏の模範や指標となるものではありません。曲全体のイメージの参考とご認識ください。

尚、1 部の特殊奏法は参考音源では反映されておりません。予めご了承ください。

「グリーンズリーブス」

【使用楽器詳細】

記譜楽器名称	国際式階名の音域
1. Mezzo Soprano in G	E5 ~ C7
2. Alto in C	A4 ~ F6
3. Tenor in G	E4 ~ C6
4. Bass in C	A3 ~ F5

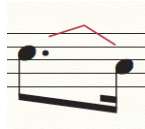
【特殊奏法】

・グリッサンド = 45 小節目等パート 1

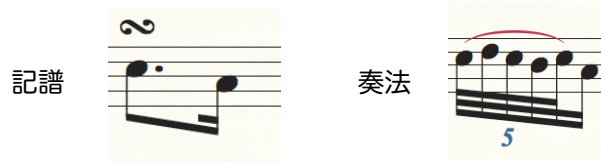
音の間を区切る事なく、滑らかに移動する。(滑奏音とも言い、トロンボーンや弦楽器に見られるのの特徴的な奏法の 1 つ)

・グルバット (ターン) = パート 1 & 2

ポピュラー音楽の奏法としては、山形記号のついた音から任意の音に上げ、即座に下げて次の音へ移る奏法。



クラシカルな奏法では、ターン記号 (∞) を用い、装飾音を譜例のように入れます。
(参考情報)



「グリーンズリーブス」86、114 小節目のパート 1 のグルバットは、最高音 F にグルバットが掛かっており、これ以上音は上げられないため、実際にはピッチの操作等で雰囲気を出すように演奏してください。

【アドリブ】

adlibitum の箇所は文字通り自由な即興演奏で構いません。

もちろんガイド譜のままでも結構です。

※ 【参考音源について】

参考音源は、楽譜をコンピューターが再現しているもので、必ずしも演奏の模範や指標となるものではありません。曲全体のイメージの参考とご認識ください。

尚、1 部の特殊奏法は参考音源では反映されておりません。予めご了承ください。

カンタータ第 140 番 BWV645 「目覚めよと呼ぶ声あり」

【使用楽器詳細】

記譜楽器名称	国際式階名の音域
1. Soprano in C	A5 ~ F7
2. Mezzo Soprano in F	D5 ~ B \flat 6
3. Alto in C	A4 ~ F6
4. Tenor in F	D4 ~ B \flat 5
5. Bass in C (Contrabass in C でも可)	A3 ~ F5 (Contrabass A2 ~ E4)

【奏法について】

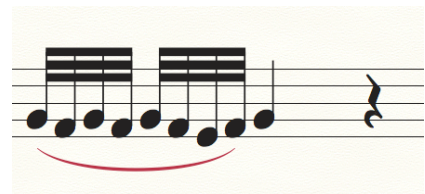
① *tr* (トリル)

バロック期のトリル奏法は「上の音から入る」のが一般的です。

記譜



奏法



② $\sim\sim$ (プラルトリラー)

元の音から 2 度上の音を演奏してすぐに元の音に戻る。

記譜



奏法



※ 【参考音源について】

参考音源は、楽譜をコンピューターが再現しているもので、必ずしも演奏の模範や指標となるものではありません。曲全体のイメージの参考とご認識ください。尚、1 部の特殊奏法は参考音源では反映されておりません。予めご了承ください。

2021 年度 日本オカリナ・アンサンブル・コンクール7 重奏課題曲

「シンデレラ」

【使用楽器詳細】

記譜楽器名称	国際式階名の音域
1. Soprano in C	A5 ~ F7
2. Mezzo Soprano in G	E5 ~ C7
3. Alto in C	A4 ~ F6
4. Tenor in G	E4 ~ C6
5. Bass in C	A3 ~ F5
6. Contra-alto in G	E3 ~ B4
7. Contrabass in C	A2 ~ E4

【音楽標語について】

- ・ scherzando = 「諧謔的に」「滑稽に」「たわむれ」「遊ぶように」等
- ・ allegrezza = 「快活」「陽気に」
- ・ apressado = 「急いで」
- ・ Moderato = 「程よい速さ」「中位の速さ」 ♩ = 76 ~ 96 程度
- ・ maestoso = 「荘厳に」「堂々と」
- ・ poco piu mosso = 「今までより少し速く」

【特殊奏法】

- ・ グリッサンド = ㊦ ~ パート4 (Tenor)
音の間を区切る事なく、滑らかに移動する。(滑奏音とも言い、トロンボーンや弦楽器に見られるの特徴的な奏法の1つ)
- ・ カデンツァ
230小節 ~ パート3、または4。
終止形の和音進行を用いて、自由で即興的な独奏の部分。
(ガイド譜のままでも、アドリブとして自由に演奏しても良い)

※ 【参考音源について】

参考音源は、楽譜をコンピューターが再現しているもので、必ずしも演奏の模範や指標となるものではありません。曲全体のイメージの参考とご認識ください。尚、1部の特殊奏法は参考音源では反映されておりません。予めご了承ください。